

參同契

竺土大仙心、東西密相附。人根有利鈍、道無南北祖。
靈源明皎潔、支派暗流注。執事元是迷、契理亦非悟。
門門一切境、回互不回互。回而更相涉、不爾依位住。
色元殊質像、聲本異樂苦。暗合上中言、明分清濁句。
四大性自復、如子得其母。火熱風動搖、水濕地堅固。
眼色耳音聲、鼻香舌鹹酢。然於一一法、依根葉分布。
本末須歸宗、尊卑用其語。當明中有暗、勿以暗相遇。
當暗中有明、勿以明相覩。明暗各相對、比如前後步。
萬物自有功、當言用及處。事存函蓋合、理應箭鋒拄。
承言須會宗、勿自立規矩。觸目不會道、運足焉知路。
進步非近遠、迷隔山河固。謹白參玄人、光陰莫虛度。

竺土大仙の心、東西密に相附す。

人根に利鈍有り、道に南北の祖無し。

靈源明に皎潔たり、支派暗に流注す。

事を執するも元是れ迷い、理に契うも亦悟に非ず。

門門一切の境、回互と不回互と、

回して更に相渉る、爾らざれば位に依て住す。

色元質像を殊にし、聲本樂苦を異にす。

暗は上中の言に合い、明は清濁の句を分つ。

四大の性自ら復す、子の其の母を得るが如し。

火は熱し風は動搖、水は濕い地は堅固。

眼は色、耳は音聲、鼻は香、舌は鹹酢。

然も一一の法に於て、根に依て葉分布す。

本末須らく宗に歸すべし、尊卑其の語を用ゆ。

明中に當て暗有り、暗相を以て遇うこと勿れ。

暗中に當て明有り、明相を以て覩ること勿れ。

明暗各相對して、比するに前後の歩の如し。

萬物自ら功有り、當に用及處言うべし。

事存すれば函蓋合し、理應ずれば箭鋒拄う。

言を承ては須らく宗を會すべし、自ら規矩を立すること勿れ。

觸目道を會せずんば、足を運ぶも焉んぞ路を知らん。

歩を進むれば近遠に非ず、迷て山河の固を隔つ。

謹んで參玄の人に白す、虛く光陰を度ること莫れ。